

道に對照する爲め、聊か參考の資に供せんとす。

葉爾羌より塔什庫爾干（蒲犁廳）に至るまでは良好なる馱獸路其れより數嶺を超過しスリナガルに通ずる道路中、キリック或はミンタカ嶺を經過せざるべからず。

キリック
とミンタ
カ

キリックを經過するはミンタカ嶺を經過するに比し、一日の行程を加へざるべからざるもキリック嶺の經過路は騎行し得べきに反し、ミンタカ嶺は兩側急傾斜、且つ馬蹄を容るゝの餘地なく、數々傾倒せんとするの虞あるが故に、犁牛即ち（後記に詳し）ヤーク（後記に詳し）を使用す。

カイバル
の險

馬は挽索を用ひて上下すれば、携行には絶對不可能とすべからざるが、騎乘にては危險通過すべからず。縦し此の兩路、其の何れを採るにせよ、カイバル附近の通路に至りては、所詮馬は使用すべからずとす。蓋しカイバルの險は兩岸絶壁、通過點其右岸に在りて、絶壁僅に足を容るゝの寸地を餘し、甚しきは隻足を置くに過ぎず。若し其の隻足も、尙ほ容るゝべからざる處は、架設の木棧に依り、纜に通過すべし。然れども土人は、背後約六七貫目の貨物を負ひ、優に石壁に面して蟹行す。素より兩手を巖角に托し、或は罅缺に掛くる等、其の危險なること、宛も及上を渡るが如しとの喩言に洩れず。